

～はじめに～

川崎市議会北米海外視察団 団長 坂本 茂

川崎市議会北米海外視察団は、10月21日から26日までの日程で、アメリカ合衆国ニューヨーク市、ボルチモア市、及びペンシルバニア州での行政視察を実施した。

未だ癒えない東日本大震災の深刻な影響や、欧州の債務危機を背景とした世界的な景気の減速など、我が国や本市を取り巻く社会経済情勢は厳しさを増している。この厳しい状況に対応するには、これまで培ったノウハウに止まらず、視野を大きく海外に開き、海外諸都市の先進事例を積極的に学び、柔軟な発想により問題解決に取り組んでいくことが必要であると考えます。

こうした認識の下、今回の視察では、特に視察内容を充実させるため、情報収集の上、時間をかけて慎重に項目を定めることとした。

そのため、視察団結成に先立ち、参加会派の代表から成る検討プロジェクトを立ち上げ、その中で検討を重ねた結果、「エネルギー政策」「大都市制度」「都市基盤整備」の3つのテーマを選定した。

東京電力福島第一原子力発電所の事故を契機とした深刻な電力不足は、国はもとより地方自治体にとっても、エネルギー政策が重要な課題であることを認識させた。また、大都市制度は、大阪都構想の議論が注目される中、政府の第30次地方制度調査会においても議論が進んでおり、特別自治市構想を掲げる本市にとって、特に重要なテーマである。さらに、武蔵小杉駅周辺地区などで、市街地の再開発が急速に進んでいる本市にとって、都市基盤整備も重要な課題である。

北米視察団では、このテーマに基づき、ニューヨーク市での「ハイライン」と「グランドセントラル BID」、ペンシルバニア州での「スリーマイル島原子力発電所」の視察を選定した。

ハイラインは、ニューヨーク市マンハッタンにある高架貨物線跡地を再利用した公園で、観光案内でも頻繁に紹介されるニューヨークの新たな名所である。その整備手法は本市のまちづくりにも参考になると思う。

BIDは、Business Improvement Districtの略で、区域内の不動産所有者が自らの地区を自らの責任で発展させる方式が、ニューヨークという大都市の中でどのように機能しているか、全米最大の予算規模であるグラントセントラル地区で学ぶこととした。また、1979年に事故を起こしたスリーマイル島原子力発電所を視察することは、エネルギー政策を検討する上で有意義であると判断し、外務省等関係機関にもご尽力いただき実現の運びとなった。

テーマに添った項目以外にも、本市と姉妹都市であるボルチモア市の市議会を表敬訪問し、議会制度を調査するとともに、都市間の友好を深めることとした。また、本市議会では、平成24年第3回定例会において、議員提案により「子どもを虐待から守る条例」を制定したことを受けて、条例を有効に生かす参考として、同市にあるジョンズ・ホプキンス大学病院児童保護チームの視察を選定した。

視察項目に関する基礎的情報を事前に学習し、より深く、より効果的な視察を実施するために、3回の事前研修会を実施した。

第1回は、日本貿易振興機構（ジェトロ）海外調査部北米課の桜内政大氏を招き、経済、産業、市場、及び都市等の米国の概況を説明いただいた。議員からは、当時、大統領選挙を控えていた米国の社会状況や経済情勢をはじめ、ボルチモア市のインフラ整備等、多数の質問があがった。第2回は、法政大学の保井美樹准教授を招き、BIDの取組事例から、日本のエリアマネジメントについて言及いただき、議員からは、我が国の再開発推進に比した事業形態、再開発の今後の展望等の質問がされた。第3回は、本市環境局放射線安全推進室の担当課長らにお越しいただき、放射線物質の概要及び本市における安全対策の推進について講義いただいた上で、内外の原子力発電所事故の概要やその対策等、エネルギー政策について知識を深めた。

その他の視察項目についても、資料を取り寄せ入念な準備をして実施した今回の視察であるが、詳細な報告は、各担当者がまとめているので、ご高覧いただきたい。

視察にあたり、関係の皆様には、多大なるご尽力とご協力をいただいた。皆様に深く感謝申し上げます、結びとさせていただきます。